



TITLE:

京大広報 No. 194

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

---

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 194. 京大広報 1980, 194: 1101-1112

ISSUE DATE:

1980-04-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209492>

RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

# 京大広報

No. 194

京都大学広報委員会



瀬戸臨海実験所「白浜水族館」

理学部附属瀬戸臨海実験所・水族館として同実験所構内（和歌山県西牟婁郡白浜町）にあり、特にイソギンチャク、エビ、カニ、ヒトデなど無脊椎動物のコレクションでは日本一を誇っている。——関連記事本文10ページ——

## 目 次

昭和55年度入学者選抜学力試験の結果……………	2	原子炉実験所第14回学術講演会……………	8
昭和54年度修士学位授与式……………	2	＜随想＞	
昭和54年度卒業式……………	2	大 学 院……………	名誉教授 堀尾 正雄………… 9
医療技術短期大学部の卒業・修了式……………	3	＜紹介＞	
部局長の交替……………	3	理学部・瀬戸臨海実験所……………	10
医療技術短期大学部主事の交替……………	3	＜保健コーナー＞	
昭和53年度および54年度の教育実習……………	3	結膜炎よもやま話……………	11
		白浜海の家開設……………	12

## ＜大学の動き＞

## 昭和55年度入学者選抜学力試験の結果

さる3月4日（火）および5日（水）の2日間にわたって行なわれた昭和55年度入学者選抜学力試験の合格者氏名が、3月18日（火）に学部ごとに発表された。

募集人員は2,506名であったが、各学部における審査の結果、合格者数は2,507名となった。

学部別の受験者数および合格者数等は下表のとおりである。



合格発表に見入る受験者達

学 部	募集人員	志願者数	第1段階 選抜合格者 数	受験者数	倍 率	欠席率 (%)	合 格 者 数	合 格 者 得 点	
								最 高	最 低
文 学 部	200	597	※ 597	578	2.9	3.2	200( 58)	926.33	754.17
教育学部	50	148	※ 148	143	2.9	3.4	50( 15)	913	764
法 学 部	330	795	794	781	2.4	1.6	331( 16)	1,000	827
経 済 学 部	200	534	534	528	2.6	1.1	200( 5)	928.5	783.5
理 学 部	281	865	862	845	3.0	2.0	281( 16)	1,067	840.75
医 学 部	120	258	256	250	2.1	2.3	120( 9)	1,104.5	927
薬 学 部	80	150	※ 150	147	1.8	2.0	80( 38)	983	799.5
工 学 部	945	1,979	※ 1,979	1,945	2.1	1.7	945( 11)	1,076	768
農 学 部	300	425	※ 425	416	1.4	2.1	300( 38)	991.5	740
計	2,506	5,751	5,745	5,633	2.2	1.9	2,507(206)		

(注) (1)※は第1段階選抜を行なわない学部を示す。(2)受験者、欠席率は最終日(文・教育・法・経済学部は外国語、理・医・薬・工・農学部は理科)のものである。(3)合格者数の( )内は女子で、内数である。(4)各学部の満点は、文学部1,100点、教育・法・経済学部1,150点、理学部1,200点、医・薬・工・農学部1,250点である。

## 昭和54年度修士学位授与式

3月24日（月）午前10時から、昭和54年度修士学位授与式が、本学総合体育館で挙行された。

学位授与式は名誉教授など来賓の臨席のもとに学位記授与が行なわれ、「総長のことば」があつて午前10時35分終了した。

修士課程修了者は、文学研究科76名、教育学研究科17名、法学研究科11名、経済学研究科14名、理学研究科116名、薬学研究科27名、工学研究科544名、農学研究科109名の計914名である。

## 昭和54年度卒業式

3月25日（火）午前10時から、昭和54年度卒業式が、本学総合体育館において挙行された。

卒業式は、名誉教授など来賓の臨席のもとに学歌斉唱、合格証書授与、「総長のことば」、「蛍の光」斉唱と進行し、午前10時40分終了した。

この日誕生した新学士は、文学部216名、教育学部51名、法学部362名、経済学部192名、理学部289名、医学部117名、薬学部76名、工学部856名、農学部281名の計2,440名である。



## 医療技術短期大学の卒業・修了式

医療技術短期大学部では、3月21日（金）午前10時から、本短期大学部大講義室において来賓・父兄等臨席のもとに、看護学科（第3回）および衛生技術学科（第2回）卒業式ならびに専攻科助産学特別専攻（第5回）修了式を挙行了した。

式は卒業証書及び修了証書授与、「学長のことば」、来賓祝辞と進行し、午前10時40分終了した。

この日新しい門出を迎えた者は、看護学科36名、衛生技術学科29名および専攻科助産学特別専攻21名である。（医療技術短期大学部）

## 部 局 長 の 交 替

## 教育学部長

4月1日、蜂屋 慶教育学部長の任期満了に伴い、その後任として河合隼雄教育学部教授（臨床心理学講座担当）が任命された。任期は、昭和56年3月31日までである。

## 教養部長

4月1日、井上 健教養部長の任期満了に伴い、その後任として阪倉篤義教養部教授（文学担当）が任命された。任期は、昭和56年3月31日までである。

## 化学研究所長

4月1日、田代 仁化学研究所長の任期満了に伴い、その後任として高田利夫化学研究所教授（磁性体研究部門担当）が任命された。任期は、昭和57年3月31日までである。

## 人文科学研究所長

4月1日、河野健二人文科学研究所長の任期満了に伴い、その後任として福永光司人文科学研究所教授（文化交渉史研究部門担当）が任命された。任期は、昭和57年3月31日までである。

## 経済研究所長

4月1日、さる2月8日行澤健三経済研究所長の逝去に伴い、その後任として宮崎義一経済研究所教授（地域経済研究部門担当）が任命された。任期は、昭和57年3月31日までである。

## 基礎物理学研究所長

4月1日、佐藤文隆基礎物理学研究所長の任期満了に伴い、その後任として牧 二郎基礎物理学研究所教授（中間子論研究部門担当）が任命された。任期は、昭和57年3月31日までである。

## 原子炉実験所長

4月1日、柴田俊一原子炉実験所長の任期満了に伴い、その後任として林 竹男原子炉実験所教授（計測装置研究部門担当）が任命された。任期は、昭和57年3月31日までである。

## 放射線生物研究センター長

4月1日、菅原 努放射線生物研究センター長の辞任に伴い、その後任として鳥塚莞爾医学部教授（核医学講座担当）が任命された。任期は、昭和57年3月31日までである。

## 医療技術短期大学部主事の交替

4月1日、熊谷直家医療技術短期大学部主事の辞任に伴い、その後任として富田 仁医療技術短期大学部教授（衛生技術学科）が任命された。任期は、昭和57年3月31日までである。

（医療技術短期大学部）

## 昭和53年度および54年度の実習

- 1 昭和53年度、54年度における教育実習の履修状況は次表に示すとおりである。なお、昭和53

昭和53年度（学部別）

学 部	文	教 育	法	経 済	理	薬	工	農	計
参加申込者	159	54	11	18	169	13	115	74	613
取 止 者	4	2			4		4	4	18
実習終了者	155	52	11	18	165	13	111	70	595

年度に京都府立山城高等学校（定時制）において教育実習を履修するはずであった文学部学生 斉藤 渡の教育実習の経過については、2に述べる。

## (教科別)

教科 学部	国 語		社 会		数 学		理 科		英 語		その他	計
	中	高	中	高	中	高	中	高	中	高	高	
文	7	25	8	58				1	16	39	(仏) 1	155
教 育	2	6	9	8	1	4	2	4	4	9	(養) 3	52
法			3	8								11
経 済	1		3	12						1	(美) 1	18
理					10	68	9	78				165
薬							3	10				13
工					26	48	5	32				111
農			1	1	2	3	11	51			(養) 1	70
計	10	31	24	87	39	123	30	176	20	49	6	595

(備考) 教科別その他の欄のうち、(仏)はフランス語、(養)は養護、(美)は美術、実習である。

## 昭和54年度(学部別)

学 部	文	教 育	法	経 済	理	薬	工	農	計
参加申込者	149	41	16	15	141	13	68	66	509
取 止 者	5	3			2		1	1	12
実習終了者	144	38	16	15	139	13	67	65	497

## (教科別)

教科 学部	国 語		社 会		数 学		理 科		英 語		その他	計
	中	高	中	高	中	高	中	高	中	高	高	
文	3	22	15	62	1	1			8	29	(美) 1 (宗) 1 (養) 1	144
教 育	5	4	3	7	4	2		3	7	2	(養) 1	38
法			5	10					1			16
経 済	1		2	9		1				1	(養) 1	15
理					10	52	13	64				139
薬							2	11				13
工					11	35	5	16				67
農			1	3	1	3	10	47				65
計	9	26	26	91	27	94	30	141	16	32	5	497

(備考) 教科別その他の欄のうち、(美)は美術、(宗)は宗教、(養)は養護、実習である。

2 京都府立山城高等学校(定時制)における文学部学生齊藤 渡君の教育実習問題に関する事実経過の概要は以下のとおりである。(文中「〇月〇日付」とあるのは、交換された公文書の日付を示す。)

昭和53年4月上旬、齊藤君は山城高等学校(定時制)に教育実習生として受入れを依頼し、4月18日付の内諾書(教科一「社会」、期間9月4日～16日)を受けとった。内諾書には教科を「社会」としてあるが、それに先立って本人

は「英語」での実習を希望し、その了承を得た。

本学から4月27日付で京都府教育委員会に対して山城高等学校における教育実習の承諾を求め、また、5月1日付で山城高等学校に対して教育実習の実施を依頼し、5月20日付で京都府教育委員会から承諾を得た。

8月29日、斉藤君は山城高等学校（定時制）において、指導担当予定の教員から教育実習の事前指導をうけ、「9月2日に来校されたい。9月4日より実習を始めるように」との指示をうけた。

ところが9月1日夜、斉藤君に対して指導担当予定の教員から教育実習延期の電話連絡があり、延期の理由をたずねたが説明はなかった。斉藤君から報告を受けた教育学部教務委員長は、山城高等学校（定時制）に対し再三実習の開始を要望し、延期の理由を求めたが、「受入れ体制が整わないので」と言うのみで実習は開始されなかった。

10月17日山城高等学校長が京都府教育委員会の職員と共に教育学部長を訪ね「山城高等学校（定時制）での受入れは困難である」旨申し入れた。これに対し、教育学部長は再考を求め、山城高等学校の責任において善処されるよう要請した。

10月23日付で、教育学部長は山城高等学校に対し、斉藤君の教育実習を早急に実施するよう善処方を要望し、10月28日までに回答されるよう求めた。

これに対して、山城高等学校長から10月28日付で同日までには回答できない旨の連絡があった。その後、10月30日付で京都府教育委員会から、当人の山城高等学校（定時制）における教育実習は受入れることができない旨の通知があった。

11月2日、教育学部長は京都府教育委員会に赴き、山城高等学校（定時制）が教育実習を受入れることができない理由として記していた「受入れ体制が整わない」こと、および「その後の諸般の状況の変化」について聞いたしたが、明確な説明はなかった。

11月13日付で、教育学部長は京都府教育長お

よび山城高等学校長に対して、事実経過を附して抗議すると共に、今後の善処方を要望した。

11月22日午後4時から、教育学部長は斉藤君の教育実習問題についての説明会を開き、事実経過を説明し、山城高等学校における実習の受入れは事実上不可能であること、また、京都府立の他の高等学校における教育実習の実施も極めて困難であると判断していること、ただし、この点はさらに要望する考えであること、それも不可能な場合には、斉藤君の教育実習の実施は、その他の方法によらざるを得ないと考えていることなどを述べた。これに対し、学生たちは山城高等学校での教育実習の受入れの実現を強く要求し、その追及は深夜に及んだ。

その後、健康を害し入院中の教育学部長に代って、教育学部教務委員長が京都府教育委員会を訪ね、再度折衝した。その結果、教務委員長は11月29日に斉藤君に対して、京都府立の他の高等学校で教育実習を受けることも不可能であるとの判断を伝え、他の方法によらざるを得ない旨を説明して、協力を求めた。これに対して、本人および彼を支援する学生たちは激しく抗議した。（11月22日および29日の事態に関しては、3を参照）

その後、教育学部長は京都府教育委員会と非公式に話し合い、昭和53年度中に適切な方策を提示されるよう要望したが、方策の提示には至らなかった。

昭和54年度に入り、さらに話し合いをつづけ、その結果、7月4日付で京都大学から山城高等学校および京都府教育委員会に対して、斉藤君の教育実習を再び依頼した。依頼にあたって、当人が、教育実習の重要性を自覚し、本学の指導方針に従い、実習校のきまりを守って実習する決意であることを申添える「別添」資料を附した。これに対して、京都府教育委員会より同日付で、山城高等学校から9月上旬に当人の教育実習を実施する、との回答があった旨の通知をうけた。

8月に入っても、教育実習の実施について山城高等学校から何らの連絡もなかったもので、教育学部長は山城高等学校および京都府教育委員会に対して、再三、教育実習実施の具体的措置



をとられるよう要望した。そして、9月4日に最終的な話し合いを行なった。教育委員会がその話し合いの内容を、以下のように整理し、これを関係者が確認した。すなわち9月6日に、教育学部長は、山城高等学校に赴いて、斉藤君の教育実習の実施を要望するが、その際、①京都大学教育学部長は、昨年以来1か年にわたって斉藤君の教育実習が実施されていないこと、その間に学生のグループが昭和53年10月26日に山城高等学校正門前でビラをまいたこと、昭和54年7月4日の報告集会に際してビラを配布したこと、の三つの事実について述べること、②その際、山城高等学校および校長の立場を考慮して発言すること、③山城高等学校長からは、校長なりの表現で、答えてもらうこと。

9月4日の話し合いでは、山城高等学校長は特に上記のビラに関して本人から詫げるようにと要求したが、これに対して、教育学部長は今回の教育実習問題は、昭和53年8月末、実習開始の直前から約1か月半、明確な理由を示すことなく、山城高等学校（定時制）が実施を延引したことに起因しているのであるから、支援グループのビラのみをとり上げて一方的に詫げるを求めるのは不当であり、山城高等学校長から本人に対して、年度を越えた1年間の延引について、何らかの形での遺憾の意の表明がないかぎり、本人からの詫げるはあり得ないであろうとの見解を述べた。この点については、山城高等学校長との合意は、結局、得られなかったのである。また、斉藤君が延引の原因などについて質問した場合は、それには答えられないとの校長の意見に対して、教育学部長は、訪問の趣旨に鑑み、そのような質問が出された場合には、話し合いを大学側で引きとること、さらに、本人以外の学生は同道しないことを認めたのである。

この話し合いの結果にもとづいて、9月6日午後2時30分に、教育学部長、教育学部教務委員長、斉藤 渡の3名が山城高等学校を訪問した。教育学部長は、本人の教育実習実施の態勢を早急に作られるよう要望し、つづいて1年を越す延引は異常であると遺憾の意を述べ、さらに、大学の基本方針としては、公式の文書およ

び公式の会合での確認にもとづいて教育実習を運営しており、ビラなどの内容にはかかわらないのであるが、上記のビラが、結果として、山城高等学校に迷惑をかけた事実については詫びたのである。これに対して、山城高等学校長からは、延引について遺憾の意の表明がなかった。校長からの質問に答えて、本人は大学の指導方針と実習校の教育方針に従うことを明言し、教育実習に対する熱意を述べ、受入れを強く希望した。また、上記のビラについては、自分を支援しているグループが行なったことであり、それが問題となったことには残念な点もあるが、支援に感謝しているので、自分から意見を云うことは控えたい旨を述べた。重ねて、校長が本人にビラに対する意見を求めたのに対して、「私の立場にもなっていないだけませんか」という意味の答をしたが、反問とか延引の追及とかいったものではなかった。

しかし、9月上旬には、教育実習は実施されることなく、9月12日付で京都府教育委員会は、山城高等学校長から教育長への報告書（9月7日付）を附して、その報告書に対する京都大学の意見と今後の対処について問合せてきた。その報告書の内容は、京都大学教育学部長の9月6日の訪問の趣旨が9月4日の関係者の話し合いにおける合意内容に違反し、また、7月4日付の依頼の「別添」資料の内容にも反しているとの理由をあげて、当人の教育実習は「大学側でとり下げるべきである」とするものであった。

これに対して、教育学部長は、9月17日付で見解と要望を示した。その内容は、9月4日の会議が京都府教育委員会の要請によって行なわれた非公式の話し合いであること、また、当日の合意内容については、山城高等学校長の報告書とは理解が異なり、違反しているとは考えないこと、さらに、7月4日付の大学からの依頼の「別添」の内容にも違反していないと考えていることを述べ、斉藤君の教育実習の依頼をとり下げることはできない旨を答え、あわせて、大学としては、山城高等学校長の報告書の内容は、当人の教育実習に対する拒否と解さざるを得ないが、京都府教育委員会がこの事態に対し

て、教育的見地に立って、さらに努力されるよう要望したものである。

京都府教育委員会は、9月28日付で、本学の要望（9月17日付）に対する所見を述べ、斉藤君の教育実習の場については、私立学校も含めて検討努力したいと回答してきた。そして、某私立高等学校における実習受入れの了解を得たと連絡してきた。

教育学部長は、斉藤君に対して、上記の私立高等学校において教育実習を受けることが可能である旨を提示し、回答を求めた。これに対して、本人は回答を留保し、10月12日に、山城高等学校における教育実習の実施を京都府議会に請願した。議会は当人の請願および支援者の同じ趣旨の請願を受理し、文教委員会において審議した。その結果、今回の京都大学と府立山城高等学校との間における教育実習問題は極めて遺憾なできごとであるとし、京都府教育委員会ならびに山城高等学校と京都大学の間で話し合いを行なって早急に善処されるようにとの要望を附して、継続審査とした。

その後、三者の間で話し合いをもったが、山城高等学校において斉藤君の教育実習が実施されるには至らなかった。

さらに、昭和54年12月の京都府議会の文教委員会においても、この問題がとりあげられたが再び継続審査となった。しかし、今回は、前回の要望に加えて、山城高等学校において実習を実施しないことは、事情如何にかかわらず、結果的には個人の思想・信条の自由や職業選択の自由を阻害するおそれがあるとの訴えもあることに充分留意して、京都府教育委員会、山城高等学校と京都大学が今後の教育実習の実施にあたるよう要望した。これに対し、山城高等学校長は京都府教育長に対して、12月22日付で斉藤渡の教育実習が「結果的には、現在なお実施できていない」旨を述べて陳謝した。

このような事態に至って京都府教育委員会は、昭和55年1月9日付で京都大学に対し、紹介した私立高等学校における教育実習の受入れも、この時点になっては、不可能になったこと、また、山城高等学校での実施も、実質的には不可能であることを、上記の山城高等学校長

の陳謝の文書を添えて、通知してきた。教育学部長は、この事態を斉藤君に通知すると共に、山城高等学校および京都府教育委員会とのこれまでの協議の経過に鑑み、止むなく、本人が内諾を得てきた大阪府立長吉高等学校に教育実習を依頼した。そして、斉藤君は、1月26日に、同校において教育実習の履修を終えたのである。

2か年にわたったこの問題について、教育学部長は、昭和55年2月12日付で、山城高等学校および京都府教育委員会に対して、山城高等学校が、昭和53年度および54年度において、二度にわたり、斉藤君の教育実習の実施を正式に承諾したにもかかわらず、正当な理由を示すことなく延引させ、実質的に受入れを拒否したことは、甚だ遺憾であることを述べ、今後、再びこのような事態を起さないよう、強く要望した。

### 3 昭和53年11月22日および11月29日の事態について

昭和53年11月22日、教育学部長は、教育学部第二講義室において、「山城高等学校（定時制）における教育実習問題について」の公開説明会を、午後4時から2時間の予定で行なった。事実経過の説明後、質疑に対して大学の方針と今後の措置について説明を加えた。やがて、予定の時間を越え午後7時になったので閉会を告げ退室しようとした。しかし、一部の学生により退室を阻止され、椅子に座られ話し合いを強要された。そこで、止むなく質疑応答を繰り返し、午後8時30分になった。教育学部長は疲労が甚だしいので、教育学部長室で医師の診断をうけ、話し合いを直ちに中止するよう指示をうけたが、学生たちは閉会を認めなかった。午後10時頃、再び医師が即刻中止して帰宅するよう指示したが、学生たちはなおも次回の約束を要求して話し合いを求めつづけた。教育学部長は「学生諸君は、この部屋から退去しなさい」と繰り返し退去命令を出したが、学生たちは聞き入れなかった。以上の経過を経て、教育学部長が極度に疲労し、長時間拘束されるという事態がつづいたので、総長は教育学部に連絡し、午後11時頃警官隊の出動を要請した。その結果、



警官隊の到着する前、すなわち、23日午前0時30分頃、学生たちは教育学部から退去した。

11月29日午後4時から教育学部講師控室において、教育学部教務委員長は、11月22日に教育学部長が説明した教育実習問題のその後の経過と結果を、学部長に代って学生たちに通知した。学生たちはその結果に満足せず話し合いを激しく求め、退室しようとした教務委員長を椅子に座らせ、方針の変更を迫った。教務委員長は22日および当日の経過からみて、このような強制的な話し合いには応じられないと、これを拒否した。

学生たちはなお話し合いを要求し、退室を阻止した。教務委員長は、午後6時頃、学生たちに対して、退去するように言ったが学生たちはこれを聞き入れず、教務委員長および同席の教官に対して一方的に責任を追及するという事態がつづいた。こうして、教務委員長および同席の教官が異常な事態のもとで拘束されることがつづいたので、総長は、教育学部と連絡して、午後7時頃警官隊の出動を要請し、教務委員長および同席の教官は救出された。

(教育学部)

### 原子炉実験所第14回学術講演会

原子炉実験所では、恒例の学術講演会を、3月21日(金)午前10時から午後5時30分まで、原子炉実験所事務棟会議室において開催した。全国の共同利用研究者をはじめ学界各分野から多数が来聴され、盛会であった。

演題、講師は次のとおりである。

- (1) 中性子回折による  $KD_3(SeO_3)_2$  の相転移の研究…………… 岩田 豊・小谷野信光・渋谷 巖(京大炉), 徳永正晴(北大応電研)
- (2) 希土類合金における一次元稠密パッキング積層不整と磁気構造… 阿知波紀郎・川野真治(京大炉)
- (3) ヘリウム・ジェット法による核分裂片の迅速移送の研究…………… 山本 洋・花田昌幸・天野裕之・加藤敏郎(名大工), 岡野事行・川瀬洋一(京大炉), 藤原一郎(京大原エネ研)
- (4) 短寿命核分裂片のイオン化とオンライン同位体分離の研究…………… 川瀬洋一・岡野事行(京大炉), 関岡嗣久(姫路工大)
- (5) 島弧の火山と火山岩…………… 西村 進・池田 隆(京大教養), HEHUWAT, F.(インドネシア科学局)
- (6) アルゴン抜き空気供給装置の技術的検討…………… 岡田守民・

小高久男・宮田清美・松山奉史・吉田博行・神田啓治(京大炉)

- (7) アルゴンの生体に及ぼす影響… 杉山武敏・藤原哲郎(神戸大医), 神田啓治(京大炉)
- (8) 中性子照射面心立方晶純金属の降伏と初期変形機構…………… 北島貞吉・篠原和敏(九大工)
- (9) 原子炉材料中の高速中性子スペクトルの測定と解析(2)…………… 木村逸郎・林 脩平・小林捷平・山本修二(京大炉), 森 貴正・金沢 哲・西原 宏(京大工), 中川正幸(原研)
- (10) LiF タイルのトリチウム保持性について…………… 古林 徹・岡本賢一・神田啓治(京大炉)
- (11) KUR 冷中性子源設備—その製作と性能試験…………… 河合 武・杉本正明・秋吉恒和・吉田不空雄・宇津呂雄彦・岡本 朴(京大炉)
- (12) KUR-LINAC の RF ドライバとインジェクタ電源の改造…………… 高見 清・柴田俊一・藤田薫頭・小林捷平・木村康洋・山本修二・小塚敏彦(京大炉)
- (13) 米国スリーマイルアイランド原発事故の教訓…………… 海老沢 徹・小田裕章・今中哲二・小林圭二・川野真治・瀬尾 健(京大炉)

(原子炉実験所)



## 〈 紹 介 〉

## 理学部・瀬戸臨海実験所

理学部附属瀬戸臨海実験所は、和歌山県白浜町にある。北に田辺湾を抱いて突き出た番所崎の頸部、桔梗平とも呼ばれた砂洲を占めている。紀州藩徳川頼宣の別荘があったという。白浜町の前身である瀬戸鉛山村の一部となった、瀬戸村の西の果てにあたる。今は臨海と呼ばれている。

国立大学の理学部附属臨海実験所は19あるが、その中では二番目に古い。大正11年(1922年)7月28日に開所式が行なわれた。それに先立って、最初の動・植物学科学学生臨海実習が行なわれた。当時は、大阪から田辺まで海路によった。出迎えた実験所の採集船に乗り移って綱不知に渡り、教官・学生一列にマムシを追いつつ山道を辿り実験所に到る、と実習日誌に書き残されている。今は紀勢本線も海岸道路も通じ、東京・名古屋からは南紀白浜空港への航空機の便もある。

敷地は40,627㎡ある。ここに、本館・特別研究室・学生実習室・学生宿舍・資料庫・水族館・博物館・職員宿舍、そして学生部所管の海の家、などの建物がある。資料庫・水族館・職員宿舍の一部を除けば、白砂と緑に埋もれた昔ながらの赤瓦の木造である。加えて、面積26,529㎡の島島実験地がある。田辺湾奥に浮かぶ小島で、実習・研究場所の確保・保全を企図して、昭和43年に取得した。ブロック建の分室が建てられている。

実験所には、現在20名の教職員がいる。比較的大世帯であるのは、水族館(有料公開)を経営するため事務掛がおかれていることによる。大学院学生も約10名が、ほぼ常時滞在している。実験所での研究は、伝統的に海産無脊椎動物の系統分類学を主軸としている。海洋生物の種生態学・群集生態学や海洋環境科学も主要な分野である。特に、八放サンゴ類・貝類・

甲殻類・ヤムシ類・ホヤ類・魚類の分類、内湾泥底や海藻帯の動物群集の構造、内湾浮遊生物群集の変動、貝類・甲殻類・魚類の生活史、行動、などの研究が行なわれてきている。

理学部生物科学系の臨海実習は、毎年、夏季および春季休業期間中に、実験所で行なわれる。地質鉱物学野外実習や教養部学生研修などにも利用されている。さらに、他大学の臨海実習にも便宜を計っている。夏には、学生宿舍が連日満員となる賑わいである。国内外の研究者による利用も多い。海洋生物に関する研究のための滞在は、収容力が許す限り認めており、事実上、共同利用に供している。年々の利用者は延2,500人を超える。

資料庫に収められた蔵書は、海洋生物学関係では国内随一と評されている。国内外の600余種の雑誌・報告書類が、実験所出版物 *Publications of the Seto Marine Biological Laboratory* 等と交換に送られて来ている。チャレンジャー、ジボガ、ダナ、ディスカバリーなどの各海洋調査船による主要な調査報告もほぼ備わっている。

水族館は、昭和4年6月の天皇御来所を記念して同6年から一般公開された水槽室である。増築・改修を重ね、現在は4室からなる。常時500種に上る海産生物を展示しており、無脊椎動物の豊富さが比類ない特色となっている。年末年始を除き、9時から17時まで開館している。

(理学部・瀬戸臨海実験所)





## 保健コーナー

## 結膜炎もやま話

人体が外界に接する部分のほとんどは皮膚に覆われていて、外傷などの特別な原因がないかぎり病原体の侵入を容易にゆるすものではありません。しかし、人体には粘膜で覆われた部分が大まかに言って4か所あり、そこからは容易に病原体が侵入します。

消化管の粘膜に感染が起こりますと、病原体の種類によって赤痢や腸チフスなどが発症しますし、鼻、のどなどの呼吸器系では鼻炎、咽頭炎、喉頭炎、肺炎が起こり、泌尿生殖器系では性病や膀胱炎などが起こります。眼の結膜は狭い範囲ですが外界と直接に接する部分で、しばしば感染を受けて結膜炎を起こします。はしか（麻疹）では結膜が重要な初感染部位と言われています。

結膜炎を起こす病原体には多くの種類がありますが、最近の抗生物質の発達によって、結膜炎を起こす病原体の種類にも大きな変化が起こってきました。有史以来人類を悩ませてきたトラコーマの病原体は、PLT 群に属するクラミジアという微生物ですが、わが国ではその罹患者が激減し、新鮮なトラコーマ患者はめったに見られなくなりました。最近の眼科医の中には、典型的な急性トラコーマを見たことがないと言う人もあります。先進国では、クラミジアは結膜炎の病原というよりは性病の一種としての感染症が問題にされているようです。

トラコーマ以外でも細菌性結膜炎はほとんどが抗生物質によって克服され、そのために失明する人の数は大幅に減少しました。残された問題疾患としては、アレルギー性結膜炎や、皮膚病に続発する結膜炎（例えば天疱瘡など）とウイルス性結膜炎があります。今回はこのうちウイルス性結膜炎についてお話いたします。

ウイルスによる結膜炎は角膜上皮も同時に侵し、角結膜炎の形をとるのが普通です。プール熱（アデノウイルス3型、7型）、麻疹、一部の風邪のように結膜以外の粘膜部と共に炎症を起こすこともあります。多くは結膜のみに炎症を起こします。

ウイルス性結膜炎は接触によって伝染しますが、あるものは非常に伝染力が強く大流行を起こすことがあります。大流行を起こした例として、1969年アフリカのガーナから拡がり、中近東、アジアを経て全世界に波及した急性出血性結膜炎（人類がはじめて月に降り立った年で、その宇宙船の名前をとってアポロ11号病とも呼ばれます）があります。この結膜炎の原因はエンテロウイルス70型という新種のウイルスで、わが国においても昭和46年から47年にかけて数十万人の患者が出たものと推測されています。また、時々小流行を起こして学級閉鎖の原因となるものに流行性角結膜炎（アデノウイルス8型、稀に4、10、11、19型）があります。これらのウイルス性結膜炎は稀に神経症状を起こすことがあるものの、一般的には予後良好で、数週間以内に結膜症状や耳前リンパ節の腫脹は軽快してしまいます。

このように予後のよい結膜炎がある反面、しばしば視力障害を残すものがあります。特に罹患者が多くて問題となるのは単純ヘルペスウイルスによるものです。このウイルスは血清学的にⅠ型とⅡ型に分けられ、Ⅰ型は主に口唇ヘルペスや角結膜炎を起こし、Ⅱ型は主に性器感染や子宮癌の原因として重視されているものです。このウイルスによる角結膜炎は角膜に樹の枝のような形をした潰瘍を生じ、遷延するとしばしば重篤な角膜混濁を残します。

もう一つの重要なヘルペス群のウイルスとして、水痘-带状疱疹ウイルスがあります。このウイルスは小児期に初感染すると水痘となり、初感染後、脳外神経節に潜伏していたウイルスが再び活性化され、神経に沿って伝播が起こると带状疱疹になります。眼と関係があるのは三叉神経の第1枝および第2枝が侵された場合で、角膜炎、ぶどう膜炎や緑内障を起こしてきます。

これらのウイルス性結膜炎はめったに生命にかかわるような重篤な余病を併発することはなく、視力障害が主な問題点ですが、稀には結膜に分布する神経を介してウイルスが軸索輸送 (axoplasmic transport) により脳に達し、脳炎を起こして神経麻痺のような重篤な合併症が現われることがあります。Goodpasture という学者は今から50年も以前に、単純性ヘルペスウイルスによる脳炎が

角結膜炎から起こることを示しています。

ウイルス感染症には原則として抗生物質は無効であり、治療としては核酸の代謝拮抗剤などが使われますが、この種の薬剤は正常細胞も障害する作用があり、理想的な治療法とは言えません。より優れた治療剤をめざして、インターフェロンや Aciclovir などの開発が現在も進められています。

予防のためのワクチンは開発されてはいるものの、ウイルス性角結膜炎の予後が一般に良好であるため、実際に使用されることはほとんどありません。接触伝染によって拡がりますので、手指の洗滌を励行すればかなり蔓延を防ぐことができます。結膜炎に罹った人自身が他人にうつさないように心がけることが最も大切なことです。

(保健管理センター・文責 千原)

### 白浜海の家の開設

本学の学生および教職員の厚生施設として、白浜海の家を下記のとおり開設しますので、利用してください。この海の家は、三段壁をはじめ千畳敷、円月島など風光明媚な南紀白浜にあり、海に近く、夏季は海水浴に最適のところですよ。

なお、建物は木造平家建（居室は、和室で3室）で、収容定員は35名です。

#### 記

1. 名 称 京都大学白浜海の家
2. 所 在 地 和歌山県西牟婁郡白浜町  
京都大学理学部附属瀬戸臨海実験  
所構内  
(交通機関) 国鉄紀勢線「白浜駅」下車、明

- 光バス「明光バス本社前」行に  
乗車、終点で「臨海」行バスに  
乗換えて、「臨海」下車
3. 開設期間 4月1日(火)から9月10日(水)まで
  4. 申 込 み 体育会事務室(西部構内総合体育館内)
  5. 所要経費 1人1泊使用料50円、ほかに食費等実費程度
  6. 備 考 海の家のある理学部附属瀬戸臨海実験所構内には、500種以上の海の生物を集めた水族館があり、公開されています。(有料)

なお、詳細は体育会事務室(電話学内2574)に照会してください。(学生部)

